

最終ゴールは、生徒の笑顔

天水中学校便り 5号

令和2年1月8日

校長 中村浩二

大きな感動のある卒業式に！

～令和2年3月13日(金) 挙行～

新年、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。そして、皆様にとって2020年が輝かしい年になりますよう心よりお祈り申し上げます。

さて、本校においては、10月に始まった後期も、あと半分となりました。学校は年度で区切るので、学年の仕上げの時期、次の学年への準備の時期となるかと思います。

私が考える後期の後半の一番大きな目標は、3月13日の卒業式です。卒業式は、正式には「卒業証書授与式」と言われ、卒業証書を授与する式典で、今もなお続く伝統行事です。言ってみれば、学校の歴史そのものです。卒業証書の番号がその表れの一つかも知れませんが、保護者や地域の方にもその一人だという方が、たくさんいらっしゃいます。その積み重ねの先に、今年度の3年生54名が巣立っていく、そう考えると感慨深いものがありますね。

保護者にとっては、子どもの成長を確認する行事。

地域の方々にとっては、地域で育てた子どもの晴れ姿を見る行事。

教育委員会にとっては、義務教育9年間の集大成を確認する行事。

本校職員にとっては、「天水中校区のこどもたちが目指す姿」を見せる行事。

在校生にとっては、来年、再来年を見据えながら、卒業生のために最高の花道をつくる行事。

3年生、つまり卒業生にとっては、卒業式は、区切りとしての「終わり」と、次の生活への出発という「始まり」の意味を持ちます。中学校では、義務教育の修了という意味も大きいと思います。そんな中で、自らの成長に誇りを持ち、それを支援してくれた保護者、地域の方々、先生方へ感謝と将来への決意を示す機会となります。そして、卒業生は地域の子どもたちが目指す姿を全力で表現します。感謝の気持ちを形にするために、立ち振る舞い、身だしなみ、返事、ことば、合唱等、それぞれに全身全霊を込める行事なのです。

こんなに大きな意義をもつ行事は、他にはありません。学校最大の行事と言っても過言ではありません。だから、みんな感動するわけです。ただ感動の大きさは、1月7日から3月13日までの生活の仕方にかかっています。もう卒業式の準備は始まっています。「チーム天水」一丸となって、一緒に頑張りましょう！

祝！「チーム天水」が文部科学大臣優秀教職員表彰を受ける！

1月7日、文部科学大臣優秀教職員表彰の報道発表があり、天水中教職員一同が表彰を受けることになりました。表彰の理由は、「全職員が保護者や地域と連携・協働し、生徒の能力や可能性を引き出す活動の場づくりを組織的に推進している」等です。「生徒の活躍」「保護者や地域の協力」「職員の支え」、つまり「チーム天水」の力が、本表彰につながりました。これをきっかけに、「チーム天水」をさらに盛り上げていきたいと思いますので、今後ともご支援、ご協力をお願いします。